

八ヶ岳 7/25,26 記録

2026..8.24

- ・日 時 2026 年 7 月 25 日(土) JR 中央線茅野駅 9:03 集合、26 日茅野駅 15:25 解散
- ・参加者 坂下さん、塚原さん、花田さん、室岡、計4名 (NPO 法人きれいな山をありがとう会員)
- ・タイム 7/25 茅野駅 9:03/20 → 美濃戸口 9:40/53^{タクシー} → 堰堤 11:40/12:20(昼食) → 赤岳鉱泉 13:30/42 → 硫黄岳 15:50/16:03 → 硫黄岳山荘 16:20 夕食 18:40、就寝 20:00 実動約 5.5 時間、13km、登り 1,300m
7/26 起床 5:00、朝食 6:05、硫黄岳山荘 6:45 → 横岳 7:27/40 → 地蔵ノ頭 9:00/10 → 赤岳 9:47/10:10
→ 行者小屋 11:10/40 → 美濃戸山荘 13:54/14:01 → 美濃戸口 14:46^{タクシー} → 八ヶ岳農業大学校 14:55
/15:10 → 茅野駅 15:25^{タクシー} 実働時間 7.5 時間、15km、登り 250m、下り 1,400m (概算)
- ・概 要 茅野駅に定刻に全員集合した。狭い改札口にタクシーの運転手がラミネート紙を持って待っていた。北口乗り場からタクシーに乗った。車中で予約状況や付近の施設などの話があり 20 分位で美濃戸口に着いた。係員 4 人で長野県登山届を呼びかけていたが、50 人位の登山者の半数以上が未届けのようで、Web で提出の場合は、ここでの提出は不要とのことだった。天気は晴れて気温は 27℃と暑かった。

美濃戸口から堰堤までは、一旦川に降りた後、緩い登りの未舗装の車道を歩いた。美濃戸山荘まで一般車が入り、ここに 60 台位駐車していた。堰堤の下で昼食をとった後、北沢沿いにシラビソの樹林の中を 1 時間位登って赤岳鉱泉に着いた。硫黄岳には、そこから樹林帯の急坂を 2 間位登り、赤岩ノ頭から岩稜を登って硫黄岳に着いた。霧が出たが雨には遭わず、20 分位草地を下って硫黄岳山荘に着いた。夕食 18:40 まで時間が合ったので、山荘下の花畑見学コースを回ったが、駒草、黄花石楠花が最後の花を咲かせていた。この日の泊まり客は 250 人位で、豪華な夕食(サラダと白身の魚、ボルシチ、ご飯)、旅館並みの朝食を 50 人の食堂に 5 回転で食べた。6 人用個室は、2 段の板間に敷・掛布団と枕が 2 組ずつ敷いてあり、毛布が部屋の隅に畳んであった。20 時消灯で枕元にライトが必要だった。部屋に換気はなく、夜は暑かった。

翌朝、霧が覆い、日の出は見られなかったが、出発のときには晴れてきた。気温は 14℃だった。両側に駒草の花が咲くガレた尾根を急登して横岳奥の院に着いた。晴天微風の中、大同心など硫黄岳の火口壁、八ヶ岳の他の峰々が遠望できた。奥の院から地蔵ノ頭まで、道ははしごや鎖の連続で、3 点確保が必要な場所が多数あった。赤岳展望荘からは急な岩溝を落石に注意しながら登り、緩やかなガレキの道を少し登って赤岳山荘に着き、岩の尾根道を少し行って赤岳山頂に着いた。頂上は狭く、写真を撮って早々に下山に移った。下山は、赤岳からの急な下りを考え、文三郎尾根を下った。かつては渋滞が起きた大きな一枚岩の難所は壊されて岩溝(レンゼ)になり、難なく通過できた。文三郎尾根は、浮き石の積もった階段が続いたが、登って来る登山者が少なく、予定時間内に行者小屋に着くことができた。

行者小屋前の広場で早めのお昼をとり、美濃戸口に向けて下山したが、赤岳鉱泉の方に道を間違え、引き返して南沢ルートを下った。コメツガとシラビソの樹林の中の道は露岩が多くて歩きにくく、終わりに近づいた頃に小雨が降り出した。美濃戸山荘に着いて一休みした後、傘をさして 1 時間位林道を下り美濃戸口に着いた。運良くタクシーが 1 台待機していてすぐに乗り込み、前日に聞いた八ヶ岳農業大学校の農園に立ち寄り、無事に茅野駅に着いて解散した。

この山行では、ヘルメットと登山靴が必帯のはずだが、無帽、半袖、短パンの韓国人グループを見かけた。逆に、ヘルメット、ハーネス、シュリングという重装備の某登山社主催の団体も見かけた。どちらも確かな背景があるようで、参考になる姿だった。最近の夏山事故からは、八ヶ岳では鎖とはしごで当面 ok だが、北アルプスの一部では後者の装備が必要になるかもしれない。

